
株式会社共栄燃産

平成29年度 環境活動レポート
(平成29年9月1日～平成30年8月31日)

発行日 平成30年10月29日



組織の概要と許可内容



名称及び代表者
株式会社 共栄燃産
代表取締役 栗田 清貴

所在地
澄川事務所(本社) 北海道札幌市南区澄川6条4丁目7番2号
北広島営業所(積替保管施設) 北海道北広島市共栄4番4
安平営業所(中間処理施設) 北海道勇払郡安平町安平308番地26
タイヤショップサッポロ 北海道札幌市南区真駒内611番地1

環境管理責任者
管理課 課長 濱浦 隆
連絡先電話番号: 011-826-6345

事業内容
産業廃棄物の収集運搬・処分、自動車タイヤ・自動車用品の販売

事業の規模
設立 平成3年6月
資本金 10,000千円
売上高 370,450千円

事業年度
9月～8月

各事業所の従業員数と延べ床面積

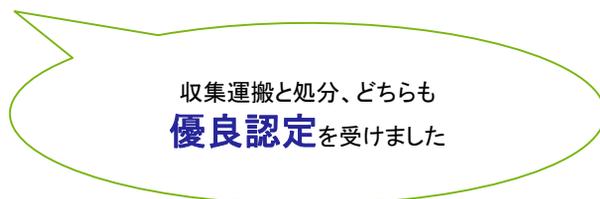
	澄川事務所	北広島営業所	安平営業所	タイヤショップ サッポロ
従業員数	9名	14名	4名	1名
延床面積	196m2	68m2	660m2	198m2

産業廃棄物収集運搬業許可

北海道 第00110006826号
許可年月日: 平成30年10月10日
許可有効年月日: 平成37年8月3日
許可品目: 廃プラスチック、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず、木くず、繊維くず、
ゴムくず、金属くず、がれき類、ガラス・コンクリート・陶器くず、鋳さい

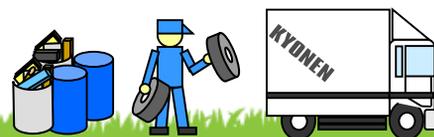
産業廃棄物処分業許可

北海道 第00120006826号
許可年月日: 平成30年10月19日
許可有効年月日: 平成37年9月9日
許可品目: 廃プラスチック(破碎、圧縮)、金属くず(切断)



特別管理産業廃棄物処分業許可

北海道 第00150006826号
許可年月日: 平成29年6月30日
許可有効年月日: 平成34年6月29日
許可品目: 廃酸(pH2.0以下のもの)、廃油(揮発油類、灯油類及び軽油類)



受託した産業廃棄物の処理量



処理方法等		廃棄物等種類	処理量(t)
収集運搬		廃プラスチック類	4,073.8
		金属くず	208.1
		廃エレメント	31.6
		汚泥	14.1
		OA機器	6.3
		廃アルカリ	2.8
		廃油	1.1
		木くず	0.7
		ガラス・コンクリ・陶磁器くず	0.4
		廃蛍光管	0.1
		がれき類	0.03
	収集運搬量合計		
中間処理		廃プラスチック類	3,620.0
		金属くず	145.2
	うち 再資源化等	廃プラスチック類	3,617
		金属くず	145.2
		再資源化等量小計	3,762
中間処理合計			3,765.2
中間処理後の産業廃棄物	最終処分(委託)	廃プラスチック類	3.0
	再資源化等	廃プラスチック類	3,617
		金属くず	145.2
	再資源化等量小計	3,762.2	
中間処理後処分量合計			3,765.2

※平成29年9月～平成30年8月



運搬車両

- 25t車・・・ 2台
- 20t車・・・ 1台
- 8t車・・・ 1台
- 7t車・・・ 3台
- 6t車・・・ 1台
- 4t車・・・ 3台
- 2t車・・・ 2台

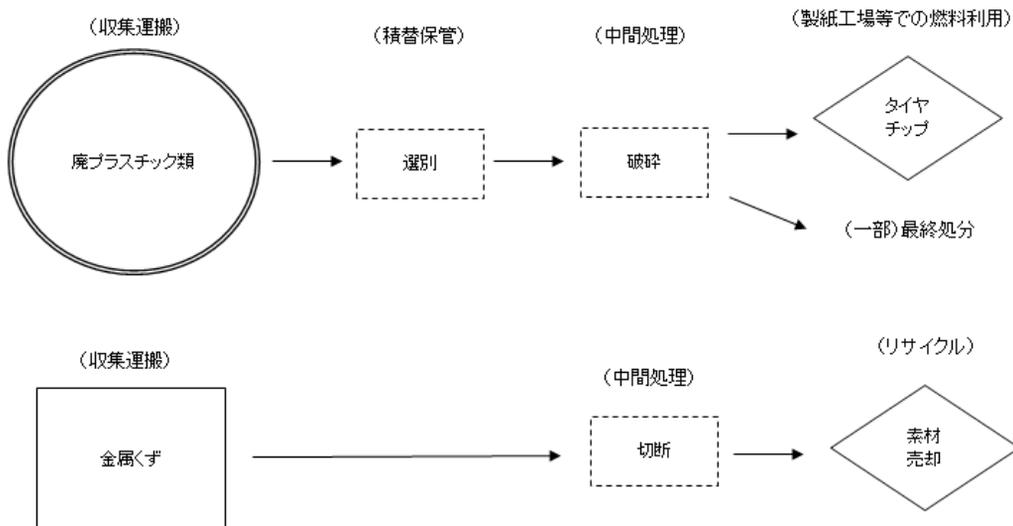
中間処理施設

施設の種類	処理能力
廃プラスチック類の破砕施設1	3.8t/日
廃プラスチック類の破砕施設2	4.8t/日
廃プラスチック類の破砕施設3	23.52t/日
廃プラスチック類の破砕施設4	32.76t/日
廃プラスチック類の破砕施設5	4.6t/日
廃プラスチック類の破砕施設6	1.8t/日
廃プラスチック類の圧縮施設	2.75t/日
金属くずの切断施設	5.8t/日

積替保管施設

種類	保管面積	保管上限
廃プラスチック類1	480m ²	1,933m ³
		高さ4m
廃プラスチック類2	320m ²	1,933m ³
		高さ4.0m
廃プラスチック類3	320m ²	1,933m ³
		高さ4m
廃プラスチック類4	180m ³	1,933m ³
		高さ3m
金属くず	25m ²	10m ³
		高さ1.25m

廃棄物処理フロー



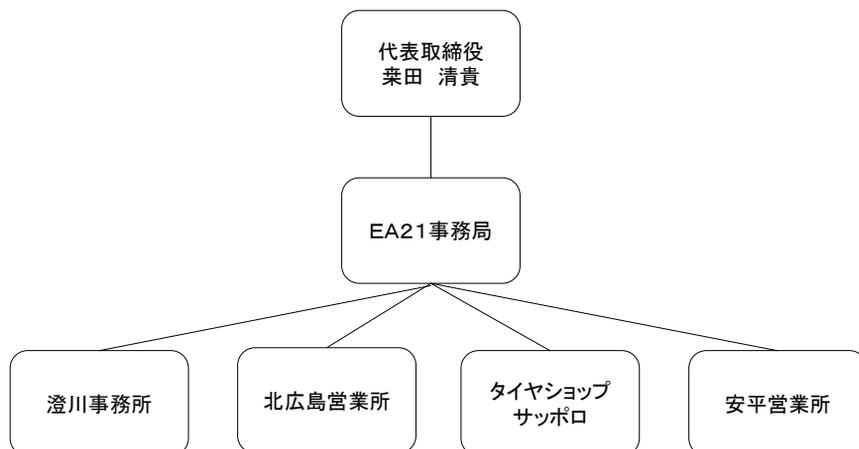
基本理念

当社は、廃タイヤの処理事業やタイヤの販売等、すべての企業活動を通じ、環境負荷の低減を図ると同時に、再資源化率の向上に努め、循環型社会の構築に貢献します。

行動指針

- ・産業廃棄物の収集運搬車両による二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ・全社員による節電・節水への取り組みや、グリーン購入の推進を通じ、限りある地球資源の有効活用に努めます。
- ・産業廃棄物の収集運搬および中間処理における環境配慮を徹底します。
- ・環境関連法規等を遵守します。

実施体制



認証登録の対象：
全事業所

項目	単位	基準値	年度毎目標			
		平成26年度	平成27年度 (H27.09～H28.08)	平成28年度 (H28.09～H29.08)	平成29年度 (H29.09～H30.08)	
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	ガソリン	ℓ	10,075	9,974	9,874	9,773
		kg-CO2	23,391	23,157	22,923	22,689
	軽油	ℓ	110,874	109,765	108,657	107,548
		kg-CO2	290,971	288,061	285,152	282,242
電力の二酸化炭素排出量削減 ※1	kWh	89,239	88,346	87,454	86,562	
	kg-CO2	61,396	60,782	60,168	59,554	
一般廃棄物の削減	各営業所から出されたごみ袋数のカウントを今年度から開始する					
産業廃棄物の削減	t	35.6	35.2	34.9	34.2	
		(廃プラスチック類)				
水道水の削減	m ³	92	92	91	90	
グリーン購入比率の向上	%	42	42.5	42.8	43.2	
収集運搬システムの効率化	定期的な会議や教育の実施を通し、日頃の運転での注意点や改善できるポイントを共有していく。					

平成29年度の目標

※活動全体を振り返り、中期目標からの変更有。

-  **自動車燃料使用量**

 - ・ガソリン使用量: 10,809L ・各車両の燃費向上
 - ・軽油使用量: 100,858L
-  **電力使用量**

 - ・澄川事務所: 9,417kwh ・北広島営業所: 6,606kwh ・タイヤショップ: 10,970kwh ・安平営業所: 67,266kwh
-  **一般廃棄物量**

 - ・一廃可燃ごみ: 全社で年間285袋
 - ・紙ごみ(古紙再生分): 全社で年間100袋
-  **産業廃棄物量**

 - ・廃プラ最終処分量14.6t
-  **水使用量**

 - ・澄川事務所: 62m³
-  **グリーン購入率**

 - ・33%
-  **収集運搬における環境配慮**

 - ・産廃保管場所清掃活動、顧客フォローでリサイクル率up

自動車燃料の使用量

【目標】

- ・ガソリン使用量： 10,809L
- ・軽油使用量： 100,858L
- ・各車両の燃費を一昨年度より1%向上

【結果】

- ・ガソリン使用量： 10,288L(目標比-521L) …○
- ・軽油使用量： 111,185L(目標比+10,327L) …×
- ・燃費： 車輛16台中5台達成 …△

【振り返り】

運送業の要領に基づいて、教育を計画的に行うことができたり、一部ドライバーが運行管理補助者の講習を受講するなど、運転全般に対する幅広い知識を得、意識を高めることができた。しかし燃料削減には結びついておらず、具体的にどのように改善していくのかが、来年度以降の課題として残った。

電力使用量

【目標】

- ・澄川事務所： 9,417kwh
- ・北広島営業所： 6,606kwh
- ・タイヤショップ： 10,970kwh
- ・安平営業所： 67,266kwh

【結果】

- ・澄川事務所： 9,744kwh(目標比+327kwh) …×
- ・北広島営業所： 7,093kwh(目標比+487kwh) …×
- ・タイヤショップ： 11,135kwh(目標比+165kwh) …×
- ・安平営業所： 72,696kwh(目標比+5,430kwh) …×

【振り返り】

各事業場別に目標設定したが、全事業場で目標より多い結果となってしまった。安平に関しては、今年度は処分量が増えているにもかかわらず電力増となっている。あまり褒められる点が無い項目となってしまった。

廃棄物量

【目標】

- ・(一廃)可燃ごみ285袋
- ・(一廃)古紙再生100袋
- ・(産廃)廃プラ最終処分14.6t

【結果】

- ・可燃ごみ270袋 …○
- ・古紙再生85袋 …○
- ・廃プラ最終処分3.0t …○

【振り返り】

一般ごみは、可燃ごみも古紙再生分の紙ごみも減らすことができた。皆がゴミの減量や圧縮に協力的であったこともあるが、特に営業所間の書類やり取りを見直し、印刷枚数を減らすという改善を行ったことによる効果が大きい。

水使用量

【目標】

- ・(澄川事務所のみ)62m3

【結果】

- ・63m3(目標比+1m3) …△

【振り返り】

日常的な節水行動は継続しているが、その効果が一巡した感があるのに加え、清掃活動をより推進したことで水を使用する機会が増えたことで、全体として使用量は増えた。清掃はむしろ会社全体で積極的に行っていることであり、これに伴う増加は全く問題が無い。目標管理の仕方が今後の課題となった。

グリーン購入比率

【目標】

・33%

【結果】

・37% (目標比+4%) …○

【振り返り】

目標はクリアできたが、この目標値自体が一般的なものに比べて低いという指摘を審査時に受けた。グリーン購入に切り替え不可能な物品を計算から除外するなどの見直しが必要であるとわかった。

収集運搬における環境配慮

【目標】

・排出事業場の産廃保管場所における分別に関する支援や清掃活動の実施を行う

【結果・振り返り】

限られた顧客のみではあるが、清掃活動を実施できた。定期的とは言えない実施内容のため、活動できるメンバーを増やし、定例業務に組み込む工夫をする必要がある。

環境活動の内容と振り返り

項目	活動内容	評価、次年度に向けて
自動車燃料のCO2排出量削減	運行管理者を中心に、ドライバー向けの勉強会を原則毎月実施。エコドライブに関する結果をフィードバックし、情報交換する。	運送業の要領を活用し、計画的に教育を実施できたのが良かった。また、ドライバーの運行管理補助者講習受講も、知識の定着に役立った。新しい社員が増えたため、次年度は統一的意識の浸透が必要。
電力のCO2排出量削減	時間外労働は各課責任者の許可を得るものとし、不要不急の時間外労働を削減する。	紙を用いる管理は負担が多くなり中止した。リーダーを通じて時間外労働の要／不要に対する意識の改善をしていく方が良いと判断。これは次年度以降徹底すべき課題だが、具体策は話し合う必要がある。
一般廃棄物の削減	プリンタカウンターに枚数制限を設け、コピー用紙使用枚数を削減する。カウンターリセット時に前月の使用枚数を確認、必要に応じて指導する。	使用制限のみによる削減は一巡した感が出てきたが、年度途中から北広島と本社間と日報のやりとり方法を変え、FAX枚数を半分程度に削減した。慣れない内は不便という感想もあったが、定着すると大きな問題無し。今後も、これまでなんとなく続けていたことなどで改善できる点を見つけ、積極的に意見を出し合う。
産業廃棄物の削減	廃プラ選別基準と置き場所の徹底。	ヤードでの選別徹底のみならず、回収時点で、当社処分ではリサイクル率が低そうなものは別の処分業者の処分にするなど、回収担当者の知識普及を進めたのが良かった。
収集運搬における環境配慮	作業場の衛生管理の徹底。定期的な会議と意見交換の実施。	早出の人が多くなど、全員揃わない日の清掃ルールがうやむやになってきた。会社の方針にとって清掃が重要であることなど、全員での4Sという意識を改めて社長から周知した。次年度以降は、社長でなくリーダーが日常的な推進を率先するように変えていく。

当社の事業に関わる環境関連法規を取り纏めの上、遵守状況を確認した結果、逸脱はありませんでした。
また過去3年間にわたり、違反や関連機関からの指摘、利害関係者からの訴訟、外部からの環境に関する苦情等もありませんでした。

代表者による評価コメント

エコアクション21の取り組みが4年目を迎えました。

今年度強く感じたことは、教育の重要性です。

これは環境活動のみに限る話ではありませんが、社の方針をすべての社員に浸透させていくには、当然一度号令をかけるだけでは十分でなく、日々繰り返していく必要があります。一見業務に直接関係なさそうな環境活動の場合、なおさら全員への定着が難しいと感じます。

私が前面に立って声掛けをし、活動に取り組んでいくことは勿論非常に大切で、社員への効果も大きいでしょうが、やはり毎日の業務の中でなると、リーダーによる推進が不可欠になります。リーダーが環境方針の意味や取り組み内容への理解をより深め、社員一人ひとりへの定着を助けていける存在に成長していくことが、当社の環境活動の発展につながるものと感じる一年でした。そのような面ではまだまだ足りない所が多く、情報伝達や共有の仕方に多くの課題も目立ちます。

来年度は、そのような課題を解決していくとともに、当社の環境活動およびそれに伴う教育が、お客様へのサービス向上に繋がっていくように、これまで以上に意識を高めて参りたいと存じます。

平成30年10月
株式会社共栄燃産
代表取締役 栗田清貴

